

# 第47回 兵庫県ジュニア体操競技選手権大会 採点規則 及び 補則

区 分	U15クラス	U12クラス	U10・CIIクラス
学年別	中1～中3	小1～小6	小1～小4 (U-10) / 小5～中3 (CII)
人 員 (男女とも)	48名 各府県8名(補欠4名)	36名 各府県6名(補欠4名)	48名 各クラス各府県8名(補欠4名)
種 目	ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒	ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒	ゆか・あん馬(ボックス)・跳馬・鉄棒 オープン: つり輪・平行棒
	割当人員に満たないクラスは、他府県より抽選順位に従って補充する。補充でも埋まらない場合はオープン参加選手を補充する。		
男子	ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・平均台・ゆか	ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・平均台・ゆか	ゆか・あん馬(ボックス)・跳馬・鉄棒 オープン: つり輪・平行棒
女子	跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか	跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか	跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか

男 子	種 目	2025年版U15男子適用規則	2025年版U12男子適用規則	下記記述以外は <b>2022年版中学校男子適用規則</b> 【但し特別要求は除く】	
	跳馬を除く全種目			難度A・Bまでの構成(7技) 禁止技あり・別表参照 難 度 2.10 (0.3×7技) 実 施 7.40 加 点 0.50 (熟練性) 要求グループなし 技はすべて2回まで認定できる	
	<b>寸度及び構成要求</b>				
	ゆか	時 間 70秒まで	時 間 70秒まで	時 間 70秒まで	
	あん馬	寸度 115cm	寸度 115cm ※ジュニアポメル使用	寸度 115cm	ボック(開催地仕様) 高さ 65cm(±5cm) マット上 規定演技 両足閉脚旋回7回 終末は両腕支持 正面支持から正面支持で一周と数える
	つり輪	寸度 265cm	寸度 265cm	寸度 265cm	寸度 265cm(+20cmソフトマット)
	跳馬	寸度 125cm 跳躍板 スプリング式 2助走1試技	寸度 120cm 跳躍板 スプリング式(2・1・2可とする) 2助走1試技	寸度 120cm	跳馬 寸度…110cm (U-10クラス) 寸土…120cm (CIIクラス) スプリング式(2・1・2可とする) 前転とび9.5+ 加点0.5 開脚とび7.5+ 加点0.5 台上前転5.0 2助走1試技
	平行棒	寸度 200cm	寸度 187cm	寸度 187cm	寸度 170cm
	鉄棒	寸度 275cm	寸度 275cm	寸度 275cm	寸度 235cm(マット上) / U-10クラス 寸度 245cm(マット上) / CIIクラス マットを重ね、マット上からの高さとする

- ※ 以下は男子のみ適用 ※CIIクラスは近畿ジュニア選考対象外
- 器具寸度でマット上等記入のないものは全て床面からの高さ。
  - 男子あん馬の入りでのとびつき台の使用は可。
  - 男子U10及びCIIクラスは小欠点(0.1)・中欠点(0.2)・大欠点(0.3)・落下、転倒(0.5)とする。  
又9.0から0.05採点を採用する。
  - 男子A・Bクラスは小欠点(0.1)・中欠点(0.3)・大欠点(0.5)・落下(0.5 U-15→1.0)・転倒(1.0)とする。
  - 競技前アップの時間は一人30秒とする。平行棒は一人50秒、跳馬は一人二本まで。
  - 鉄棒の手放し技の追加マットについては、競技会場にあるセフティマットを使用する。  
(追加マットの使用は鉄棒の手放し技のみ。他の種目・終末技での使用は認めない→ND-0.5)
- 男子鉄棒において補助者のみで速やかに取り除くことが困難な場合は、選手または同組の指導者等による撤去補助を認める。この行為は認められない補助者には該当しない。

## 男子禁止技

男 子	U15クラス	U12クラス	U10・CIIクラス【C難度以上と下記の技】
ゆか	2025年版U15男子適用規則 に準ずる	2025年版U12男子適用規則 に準ずる	1回以上のひねり技 (後方1回ひねりは可、前方1回ひねりは不可) 2回宙返り 【グループIは除く】
跳馬			宙返りを含んだ跳躍技。 ・1回以上のひねりを含んだ跳躍技。
鉄棒			宙返りひねり下り 2回宙返り下り

上記禁止技は、能力別資格に準じて設定したもので、他の技に対してもそれに準じた考え方をする。

万一禁止技を実施した場合は、男女とも次のとおりとする。

跳馬の場合は0点とする

実施した禁止技の難度は認めない。ただし、実施減点はなされる。

実施した場合、すべてのクラスにおいて各1.00の減点とする。(禁止技を行った回数×1.00)

# 女子採点指針

2026.6月改定

全体として	① 身体の細部まで常に意識された美しい姿勢 ② 技術欠点、姿勢欠点のない正確な基本技
跳馬	① 助走から着手までのスピードと鋭い突き上がりのあるダイナミックな跳躍 ② 第1空中局面、支持局面に欠点がない正確な実施 ③ 着地の先取りができる跳躍
段違い平行棒	① 腕の曲がり、膝・つま先の緩みがない美しく伸びた体線での正確な技の実施 ② け上がり、後ろ振り上げ倒立や支持回転系の技において、姿勢欠点がない正確な技の実施 ③ 振幅の大きな車輪系の技、支持回転系の技、終末技の実施
平均台	① -美しい脚のラインと重心が高い立ち姿勢 -高いトウ立ちとつま先まで意識された美しい足のさばき ② -姿勢欠点がない正確なアクロバット系の技の実施 -ジャンプ・リープ・ホップに高さや身体の高さがあり、すべてのダンス系の技において姿勢欠点がない正確な実施 ③ 身体を最大限に使い、演技全体に流れのある芸術的な演技
ゆか	① 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に身体の細部までコントロールされた美しい姿勢 ② -アクロバット系の技の高さがあり、着地姿勢までコントロールされた正確な実施 -ジャンプ・リープ・ホップに高さや身体の高さがあり、すべてのダンス系の技においてコントロールされた正確な実施 ③ 身体を最大限に使い、表情だけでなく身体全体で表現された芸術的な演技

※ 以下は女子のみ適用

- 近畿体操協会適用規則以外は、日本体操協会制定の2025年版女子採点規則集を適用する。  
**全クラス共通**、難度表にはないが変更規則でA(0.10)の難度点として認められる技は、構成要求に使用できない。
- 着地用追加マット(10cm)は必ず置くこと。
- 女子U10クラスの段違い平行棒において、高棒のみで演技を実施する場合、コーチの補助または競技会で準備された補助台を使用し演技を開始する。それ以外での演技開始は認められない。

## 女子禁止技

女子	U15クラス	U12クラス	U10クラス / CIIクラス
跳馬			2025年版 4.00P以上の跳躍技
段違い平行棒			C難度以上の技 および B難度以上の終末技
平均台			空中局面を伴うアクロバット系のC難度以上の技 および B難度以上の終末技
ゆか			空中局面を伴うアクロバット系のC難度以上の技 および B難度以上の終末技

上記禁止技は、能力別資格に準じて設定したもので、他の技に対してもそれに準じた考え方をとする。

万一禁止技を実施した場合は、男女とも次のとおりとする。

跳馬の場合は0点とする

実施した禁止技の難度は認めない。ただし、実施減点はなされる。

実施した場合、すべてのクラスにおいて各1.00の減点とする。(禁止技を行った回数×1.00)

※ 男女とも難度にとらわれず、質を重視し、正しく・美しい演技を評価する。

※ 器具については、大会本部が用意したもののみ使用するものとする。

※ 男女とも技の実施において危険な実施が見受けられた場合、各種目主審または審判長によりその技の実施を中止させることができる。万が一その中止させられた技を実施した場合、該当種目を0点とする。

近畿ジュニア体操競技選手権大会女子採点規則

2026年6月改定

種目	U15クラス	U12クラス	U10クラス	
	禁止技なし	禁止技なし	寸度	禁止技:C難度以上(ダンス系を除く) 終末技はB難度以上
女子	日本体操協会 U15 女子適用規則 2026年版	日本体操協会 U12 女子適用規則 2026年版	跳馬 U10クラス 跳馬 110cm スプリング 2・1・2も可とする	Dスコア 最大3.00 Dスコア3.00以上の跳躍技を実施された場合、それぞれの跳躍技にDスコア3.00が与えられる ※難度表にない跳躍技での実施 ・台上前転、開脚とび Dスコア0.00/Eスコア8.00から減点 Eスコア 10.00から減点 ※2回の跳躍を実施し、良い方のスコアを有効点とする
			段違い 平行棒 高棒 255cm 低棒 175cm	CR1:低棒と高棒で少なくとも一つ以上の技を実施 CR2:開始技(逆上がりは認められない) CR3:空中局面を伴わない棒に近い回転系の技 CR4:後方車輪と後ろ振り上げ倒立(閉脚/開脚) ※CR4内訳 後方車輪または後ろ振り上げ倒立(閉脚/開脚)のどちらかできれば0.30 両方できれば0.50 ※禁止技としない技 例:後方シュタルダー・後方浮支持回転倒立など ※「低棒から高棒へジャンプして移動する」減点は適用しない ※同一技は2回まで難度点として数えることができる Eスコア 10.00から減点
			平均台 105cm (マット上)	CR1:180度の開脚(前後/左右)または左右開脚屈身のリープ、ジャンプを1つは含む、少なくとも2つの異なるダンス系の技からなる組み合わせ CR2:ターン(グループ3) CR3:前方/側方のアクロバット系の技 CR4:後方のアクロバット系の技 ※同一技は2回まで難度点として数えることができる 【演技時間90秒まで】 Eスコア 10.00から減点
			ゆか	CR1:180度の開脚(前後/左右)または左右開脚屈身の跳躍技を1つは含む2つの異なるリープまたはホップ(難度表にある)直接または間接(ランニングステップ、小さなリープ、ホップ、シャッセ、シエネターンが入った)の組み合わせでの移動 CR2:ターン(グループ2) CR3:前方/側方のアクロバット系の技 CR4:後方のアクロバット系の技 ※同一技は2回まで難度点として数えることができる 【演技時間90秒まで】 Eスコア 10.00から減点
Dスコア			Dスコア 最大3.00 ・段違い平行棒、平均台、ゆかでは終末技を含む最大8つの難度点、構成要求、終末技ボーナスを含む ・難度点の制限:B難度、C難度以上(ダンス系の技のみ)の技はそれぞれの技に、最大0.10の価値を与える ※平均台・ゆかでは数えられた8つの技の中には少なくとも以下を含めなければならない ・3つのダンス系の技 ・3つのアクロバット系の技 ・残りの2つの技は任意の選択 難度点 最大0.80 構成要求(CR) 最大2.00 (各0.50) 終末技ボーナス 0.20 <b>終末技について</b> 終末技ボーナス A難度の終末技に対して0.20のボーナスが与えられる ・終末技ボーナスは難度表にある技のみボーナスが与えられる ・ボーナスを与えるためには、終末技は転倒することなく実施されなければならない ・終末技として承認できない技の実施は技数としても数えないが、「終末技なし」の減点は適用しない ※段違い平行棒では、低棒で終末技を実施した場合、難度点及び終末技ボーナスは与えられない ※ゆかの終末技は、同一技は認められず、アクロラインでなければならない ・変更規則でA難度として認められる技は、構成要求に使用できない ・短い演技の減点は変更規則を適用する	
Eスコア			Eスコア 演技の実施、芸術的表現、すべてが完璧であれば10.00を獲得することができる <b>【平均台・ゆか共通】</b> 芸術性の減点 最大1.00 ・身体の姿勢が悪い(-0.10/0.20/0.30) ・動きの大きさが不十分(-0.10/0.20/0.30) ・美しさに欠ける足さばき(-0.10/0.20/0.30) ・身体の各部位が芸術的表現に十分に関与していない(-0.10)	

**近畿ジュニア体操競技選手権大会**  
**男子U-10クラス 奨励種目（つり輪・平行棒）**  
**規定演技解説**

2026年4月制定

つり輪(奨励種目)規定演技

区 分	配 点	解 説 文
I	1.5	腕を軽くまげて引き上げ逆懸垂～前振り出し～懸垂後ろ振り
II	2.0	懸垂前振り～懸垂後ろ振り
III	2.0	懸垂前振り～懸垂後ろ振り
IV	2.0	懸垂前振り～懸垂後ろ振り
V	2.0	後方かかえ込み宙返り下り
	0.5	加点
合 計	10.0	

平行棒 (奨励種目)規定演技

区 分	配 点	解 説 文
I	1.5	け上がり～脚前挙（2秒静止）
II	1.5	伸腕屈伸（開脚）力倒立（2秒静止）～振り下ろし
III	1.5	支持前振り～後ろ振り
IV	1.5	支持前振り～後ろ振り
V	1.5	支持前振り～後ろ振り
VI	2.0	支持前振り～後ろ振り片手持ち替えて下向き下り（バーを横にして着地）
	0.5	加点
合 計	10.0	